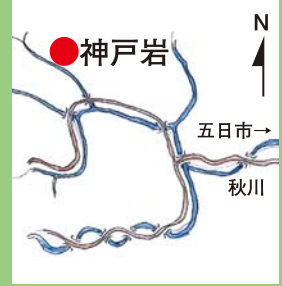


# 多摩川



## 多摩川源流 神戸川 (かのとかわ)

JR 武蔵五日市駅から檜原街道を秋川に沿って西へ行き、檜原村役場の前を通り過ぎ本宿交差点を右折ししばらく行くと神戸岩入口バス停があります。南浅川の支流である神戸川に沿って約2 km 突然巨大な神戸岩が行く手を遮ります。よく見ると2つに割れてその間を天井までつるつるに磨き上げている神戸川が流れています。仏像断層という奇妙な名前の断層の隆起で川底が次々と下がってできた奇岩です。

有名なパワースポットらしく、画面左下の鉄梯子を登りチェーンにつかまりながら潜り抜け、振り返って見ると、画面右の岩の中にある洞窟にヤギ髭の祈祷師のような若い人が護摩を焚いて念仏をととなえておりました。

画と文  
工博 野尻明美  
日野市在住

## 目次

- 特別寄稿 ..... 2
- 多摩川散歩 ..... 4
- 多摩川に学ぶ ..... 5
- インフォメ・多摩川 ..... 6

- とうきゅう環境財団 一年のうごき ..... 12
- 財団からのお知らせ ..... 22
- 新連載「ヘタレサイクリスト 多摩川を下る」 ..... 24

# 特別寄稿



## 多摩川とチリウン川が 姉妹河川となることを夢見て

NPO法人  
多摩川エコミュージアム  
副代表理事

五十嵐 豊

私たちは多摩川の素晴らしい価値を高く評価し、自然資産と歴史・文化遺産を保全・継承し、地域づくりを進めるNPO法人「多摩川エコミュージアム」（松井隆一代表理事）で活動を続けています。拠点はJR南武線登戸駅近くの「二ヶ領（にかりょう）せせらぎ館」です。

昨年計らずもジャカルタ市内を流れるチリウン川の清掃ボランティア団体と交流が始まりました。多摩川とチリウン川の民間交流。私たちの夢は、清流が戻ったチリウン川で日本・インドネシア対抗のいかだレースをすることです。交流のいきさつを報告します。

### ◆◆ 出会い ◆◆

突然、二ヶ領せせらぎ館に「ジャパンお掃除クラブ」（屋形修代表）が来館しました。「ジャカルタお掃除クラブ」（芦田洸代表）が来日するので多摩川を一緒に清掃活動をしたいとの話です。「ジャカルタお掃除クラブ」は芦田洸代表が「じゃかるた新聞」のコラムで呼びかけ2012年に設立した清掃ボランティア団体です。好奇心もあり大歓迎でした。

2015、2016年とインドネシアの若者中心にメンバー9名が「国際交流基金」の支援を受け来日して清掃活動をしました。2016年は川崎市の浮島処理センター（ゴミ焼却処理施設）の見学もしました。3年目に入った去年はジャカルタへ訪問する計画を立てましたが、準備不足で訪問が不可能となりました。交流を継続させなければ交流事業は絶えてしまう。頓挫させてはならないと有志5人が自力でジャカルタを訪問しました。

幸い訪問先は「ジャカルタお掃除クラブ」の皆さんが体制をつくってくれました。タンゲラン市立チサウック第一中学校では校内掃除の仕方を説明しました。



チサウック第一中学校の生徒たち

チリウン川では約40名のボランティアの人たちと清掃活動が出来ました。チリウン川はボゴール県から人口1,000万人のジャカルタ市内を流れ海に注ぐ全長120kmの川です。多摩川は全長138kmですから都市河川としての親しみがわきます。当日は、26団体中の複数の団体と互いに活動内容をプレゼンし交流を深めました。



チリウン川の清掃活動

チリウン川は決して綺麗な川とは言えません。濁ってゴミが流れています。少し匂いもあります。ふり返れば多摩川だって1960年代は生活排水が流れ込み、田園調布堰は洗剤の泡が飛び散っていた記憶があります。交流会終盤に11月11日をチリウン川の日として活動していることを聞き、それならば多摩川でも同日に清掃活動をしてつながりを深めることを約束して帰国しました。

## ◆◆ 11月11日はチリウン川の日 ◆◆

チリウン川で希少カメが発見され、カメが暮らしやすい環境にする目的で設定された日が「チリウン川の日」です。

当日は多摩川にも在日インドネシアの方々に参加してもらうため、知人への紹介依頼や日本語教室などを訪問しPRしました。在日インドネシア大使館からはエコ・ジュノン公使参事官を迎えてイベントが開催でき、公使参事官からは「感動しました。とても有益なイベントだと思います」と述べられたのを聞いて身に余る光栄です。また努力が報われたと安堵しました。

河川敷でジャカルタの方角に向かって「フレーフレー チリウン」「フレー フレー ジャカルタ」とエールを送りました。



「チリウン川の日」に多摩川河川敷からエールを送る！

「チリウン川の日」が有ることは訪問したからこそ知り得たことです。交流を継続することで新たな発見があり、課題が見えてきます。

## ◆◆ 清流活動のお手伝い ◆◆

これからの多摩川とチリウン川の交流を考えてみました。この多摩川の清流をチリウン川でも実現したい。濁った色とゴミの流れる川です。まずはゴミが流れない川となり、その後に綺麗な川へ変身できれば素晴らしいことです。多摩川だって復活したのです。

①交流を深めて26団体から汚れの状態や原因を確認すれば短時間で実態が分かります。

②並行してジャカルタ州政府の考えや施策を知る

③インドネシアに詳しい方、駐在経験者などと勉強会を開催する。

インドネシアにはインドネシアの文化や価値観が有ることは承知しています。チリウン川の環境浄化に向け彼らに押し付けることなく多摩川で経験した行政や住民活動を理解してもらい、活用してもらえればと願います。「お掃除文化」を通じた交流事業から新たな街並みができ、市民が集う広場が生まれることを願っています。

## NPO法人「多摩川エコミュージアム」のご紹介

1997年に行政と協働で定めたのが「多摩川エコミュージアム構想」です。1999年にせせらぎ館が開館され、2002年にNPO法人「多摩川エコミュージアム」が、誕生しました。

活動内容の一部をご紹介します。

### ◇ 情報発信

ホームページ：「ニヶ領せせらぎ館」

<http://www.seseragikan.com>

情報紙：「エコ・たまがわ」

隔月発行A3版 裏表 会員は無料配布  
館内展示：地域住民・地域大学の絵画や写真などの作品発表を月単位で入替展示

### ◇ 環境学習（幼児から社会人迄）

川崎市内の小中学校の環境学習の支援、小学校の仕事体験受け入れ、リトミック教室  
春・秋の多摩川河川敷の野草観察会、野鳥サロン、野鳥観察会、ネイチャークラフト教室

### ◇ 毎月第一土曜日：多摩川クリーンアップ

（ニヶ領用水含む）、企業との合同クリーンアップ

### ◇ コンサート

（春）桜のコンサート （夏）夕涼みコンサート

（秋）収穫祭とコンサート

### ◇ 川を楽しむ

エコ★カップいかだ下り、

河童の川流れ、11月11日チリウン川の日

### ◇ 地域と協賛

かわさき色輪っかつなぎ、

多摩川せせらぎ夏万博大作戦、おひさまフェス等

**是非ニヶ領せせらぎ館にお越しください！！**

## 多摩川散歩

### 多摩川源流大学から



多摩川源流大学事務局  
NPO法人多摩源流こすげ事務局  
東京農業大学非常勤講師

石坂真悟

#### ～400年前のナゾ解きイベント～

#### 3月25日「小菅村・丹波山村平成の陣取り合戦」

丹波山村と小菅村が接する今川峠の境界をきめたことについて、小菅村郷土小誌に次のような伝説が残っています。『昔は一つの広い村を2つに分ける際、両村は仲が悪くて揉めてしまった。そこで村中で話し合っ、両村の中心地から一番鶏が鳴く時に牛を歩かせて、ちょうど出会ったところを村の境界とすることにした・・・(中略)、早く出発した小菅側の牛は、峠を通り越したところまで歩いた。だから今でも村の境界は峠になく尾根を少し丹波山村側に下ったところにある。』



武将姿で峠まで歩きます



当日は馬も登場します

上記のような伝説がある両村の境界を、今一度決めようというイベントが3月25日に開催されます。当日は伝説を模して、両村から馬をあるかせて出会ったところが、平成30年の境界となります。当時の様子を感じながら、今ではイベントとして復活を遂げ、これからの両村の発展を目指しておりますので、ぜひ多くの方のご参加お待ちしております。

開始時間：両村の神社（小菅村箭弓神社 丹波山村熊野神社）9時出陣式

#### 小菅村イベント情報

寒い寒い冬が終わり、少しずつ春の装いになり始める小菅村です。まず初めに山ではマンサクが咲き、野にはノカンゾウの若芽が吹き、日に日に変わっていく山の様相をみていると、「新緑」と一言では言い切れないほどの緑色の多様さを実感します。そしてその多様な一色一色に名前を付けた伝統色があることが頷ける景色です。

#### 【3月は、新緑の小菅川で溪流釣りデビュー】

##### ～源流釣り師が教える手ブラで溪流釣り～

自然豊かで美しい溪流、その流れには美しい渓魚が棲んでいます。そんな溪流で美しい魚を釣ることはまさにロマンです。しかし、溪流釣りは初心者の方にはハードルが高いと思う釣りでもあります。竿や仕掛けはどんなもの？ 川に入るための装備は？

場所？ 規則は？ そんな「溪流釣りに興味がある・これから溪流釣りを始めてみたい・溪流釣りを始めたばかりの初心者の方」を対象に不安や疑問について専属スタッフが丁寧にレクチャーします。

開催日：3月毎日開催 催行人数：2～6名  
体験料：通常6,000円→いまならプレ企画料金  
半額の一人3,000円



釣り初心者にもやさしい釣り場

#### 【3月10日・11日 猟コース 罨猟師体験】

##### ～くくり罨の仕掛け方を学ぼう～

最近では農山村での鳥獣被害や狩りガール、ジビエといったものが世間の話題になることも多く、理由は人それぞれですが、比較的免許が取得しやすい罨免許を取る人が増えているようです。しかし、新米罨猟師には分からないコトだらけ。

このコースでは数種類のくくり罨の使い方、山に入って獣道を探して罨を仕掛け、次の日に仕掛けた罨を見回り、捕獲されていたら止め刺しから解体まで行うコースです。

実際に山に入って獣の足跡探し↓



現地の若手移住猟師がご案内します



※捕獲されてない場合もシカの後ろ脚の解体は行います。 体験料：12,000円（別途宿泊費）

#### 【3月17日 日帰り企画 アニマルウォッチング】

◆サルの特メトリー調査体験！遭遇率60%！

◆ムササビ観察！遭遇率90%！！

◆夜行性動物を探すナイトサファリ！何かに出会う！遭遇率80%！！

夜の寒さが少し和らぎ始めた早春のころ、まだ木の若葉が萌える前に山々に隠れていた動物たちを「覗き」に行きませんか？

サルが集落の側に来たり、ムササビが忙しく飛び回ったり、シカが求愛の鳴き声を山々に響かせたり・・・ 体験料：9,000円

#### 【毎日開催】日程が合わなくても、気になる“小菅村”を知りたいという方へ

～小菅村の魅力を楽しむ村案内プライベートツアー～  
4千年も前からこの土地で人々が脈々と生活を続け、いまなお昔ながらの文化と景観を残す小菅村は「東京から最も近い日本の原風景」です。

一方で村民が様々な新しいチャレンジをしていて、最近ではメディアに引っ張りだこの村です。多数の大学との連携、ITの先進的な取組みやクラブビールの製造、最近ではゾンビイベントで話題になりました。ご案内はお客様のご要望に合わせて実施します。お気軽にお問合わせください。

催行人数：1～7名 案内時間：2時間程度

体験料：1,500円/人

※体験内容の詳細については、NPO法人多摩源流こすげHPまたは0428-87-7055までお問い合わせください。

<http://npokosuge.jp/experience/>

## 多摩川に学ぶ

子どもを真ん中に両岸がつながる



NPO法人砧・多摩川あそび村  
理事長 上原 幸子

### 1年間の活動の成果を発表する

水辺での活動がオフシーズンとなる冬場は、多摩川流域のあちこちで活動発表の機会が設けられています。子どもたちの興味・関心の中心は圧倒的に生きもの。今時の子どもたちらしくパワーポイントなども使い、水生生物、野鳥や虫、植物など、美しい写真を用いた大人顔負けの発表も少なくありません。流域の学校の授業、自由研究、自然体験活動など子どもたちの発表を通して、親だけでなく地域の関係者も一緒に多摩川の魅力を学ぶ絶好の機会となります。

世田谷区喜多見児童館の「宇奈根の渡し」も常連組のひとつ。今年は残念ながら増水により、多摩川の3箇所で行なわれる渡し舟はどこも船を出せず、私たちがイベントのみのお手伝いとなりましたが、今年度は川崎市で「多摩川渡し場サミット」もあり、子どもたち制作の渡し舟「夢叶丸」の展示も行いました。

### 子どもたちの多摩川 138kmの旅から生まれた「宇奈根の渡し」



手作りの舟「夢叶丸」

「宇奈根の渡し」は子どもたちが企画し、大勢の地域の大人たちが応援して実現したプロジェクトで、この5月で5回目を迎えます。きっかけは世田谷区の児童館の「子ども夢プロジェクト」で、喜多見児童館が「多摩川138キロの旅」と題し、羽田の0キロ地点から山梨県の笠取山の水干まで、平成25年から2年間12回に分けて子どもたちと歩いたことに始まります。

「大師の渡し」という記念碑を発見したことから、児童館の近所に「宇奈根渡し場道公園」という名の場所があるのに子どもたちが気づき、宇奈根にも昔渡し舟があったと地域で聞いて知ったのだそうです。中心になった有志の子どもたち25人による作戦会議は20回にも及んだといいます。暴れ川だった多摩川の歴史から、対岸の川崎市にも同じ「宇奈根」という地名があることを知り、元は一つの街だった対岸の宇奈根の



多摩川の河口から源流まで。もうすぐゴールです

子どもたちを渡し舟で世田谷に招いて遊びたいという子どもらしい発想が、地域の大人たちを動かしました。危ないからやめさせる話にはならず、大人も乗ってみたいと船の運搬や複数回にわたる棹差しの練習など、大変なサポートをかって出してくれました。もちろん児童館が作ってきた人的ネットワークがあったからこそ可能だったと言えます。地域に船を持っている人から船作りも教えてもらえるとのことで船も作りました。



地域の人の手ほどきでの舟作り

格好も江戸時代に遡ろう、と渡し場が盛んだった頃の衣装を着て、「宇奈根の渡し1日だけの大復活～江戸時代にタイムスリップ」と題した地域みんなの夢を実現するイベントになり、「宇奈根の渡し」の碑も建てることができました。



江戸時代の扮装の有志25人

歴史というものはプロセスがあるからこそおもしろく、物語が生まれ人の心を動かし、物語が生まれ人の心を動かし、「宇奈根の渡し」は、子どもたちの探究心と粘り強さが地域の大人たちを動かし、世田谷区と川崎市の包括協定にも発展しました。対岸、そして人と人をつなげる象徴として、語り継いでいきたいと思えます。

## インフォメ／多摩川

多摩川流域他の各種団体等の3月から6月に開催される環境活動に関する主な行事・イベント情報を紹介いたします。

### ☆ 美しい多摩川フォーラム

1. 桜ウォーキングと桜守学校 (3月28日(水): 都立小金井公園/主催: 美しい多摩川フォーラム/  
後援: 公益財団法人東京都公園協会、小金井市)
2. 多摩川夢の桜街道“美しき桜心の物語”の語り会 (4月14日(土): 日野市・高幡不動尊(金剛寺)、  
語り部・平野啓子副会長)
3. 多摩川夢の桜街道・桜の札所巡り (4月: リビング多摩、美しい多摩川フォーラム)
4. 多摩川“水”大学講座 (5月18日(金): とうきゅう環境財団会議室)
5. 多摩川一斉水質調査 (6月3日(日))
6. 多摩川“水”大学講座 (6月15日(金): とうきゅう環境財団会議室)

#### ■ お問い合わせ先

美しい多摩川フォーラム事務局 (青梅信用金庫 地域貢献部内)

担当: 及川/黒米/木村

TEL: 0428-24-5632 FAX: 0428-24-4650

E-mail: forum@tama-river.jp URL: http://tama-river.jp

### ☆ みずとみどり研究会

#### 第15回 身近な水環境の全国一斉調査のお知らせ

日時 2018年6月3日(日) ※世界環境デー (毎年6月5日)

測定項目 気温、水温、COD、その他(任意)

測定方法 取扱説明書にもとづき、調査キットで測定  
(参加申込者に2018年4月末~5月頃に配布予定)

参加申込と締切り 同封の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、下記の事務局(みずとみどり研究会)に、  
2018年3月10日(土)までに必ずご送付下さい。

なお、ご記入いただいた個人情報は今回の調査に関する連絡以外に、ご本人の許可なく使用いたしません。

申込受付 参加申込された団体はホームページで公表させていただきます。

#### ■ お問い合わせ先

事務局 全国水環境マップ実行委員会 みずとみどり研究会気付

〒185-0021 東京都国分寺市南町2-1-28 飯塚ビル202

TEL/FAX: 042-327-3169 E-mail: mizutomidoriken@ybb.ne.jp

URL: http://www.japan-mizumap.org

## ☆ むさしの化石塾

### ■ 室内作業日程「調べ学習・室内ワークショップ」参加費 2000 円

3/17 (土) 化石の調べ学習 (日程を変更しています。)

4/21 (土) 化石の調べ学習

5/19 (土) 化石の調べ学習

6/16 (土) 化石の調べ学習

※場所：むさしの化石塾

〒 208-0003 武蔵村山市中央 3-20-7

最寄りバス停：武蔵村山市役所前下車徒歩 3 分



室内作業の様子

### ■ 野外体験会 4/29 (日) 10 時～2 時 (お弁当要持参)

多摩都市モノレール柴崎体育館改札出口集合

多摩川小山田層のモラスカ化石採集会 参加費 3000 円

※野外ワークショップの内容の詳細は参加申込み者に別途ご案内いたします。

### ■ 申し込み方法 (要事前申込願います。)

※参加申し込みはメールにて、希望件名、参加希望日、お名前、性別、年齢、住所連絡先、電話番号、緊急連絡先、web アドレス等を記入頂きご返信下さい。

メールアドレス：geo@extra.ocn.ne.jp まで、お願いします。

Geo Wonder 企画 むさしの化石塾

〒 208-0003 東京都武蔵村山市中央 3-20-7 MKJ 事務所

むさしの化石塾 代表 福嶋 徹

## ☆ 一般財団法人 世田谷トラストまちづくり

○野川せせらぎ教室～世田谷区成城四丁目付近の野川

・4月22日(日)・5月20日(日) 午前9時30分～11時30分 ※要申込

○初夏のバードウォッチング～多摩川周辺

・5月26日(土) 午前9時30分～11時30分 ※要申込

○世田谷トラストまちづくりビジターセンター「身近な自然と触れ合うミニイベント」

～世田谷区成城4-29-1(野川沿い) /TEL03-3789-6111

・3月17日(土) 午後1時～3時30分 ※要申込

・4月8日(日) "さくらカフェ in 野川" 午前10時～午後3時頃 ※申込不要

・5月13日(日) 午後1時30分～3時 ※要申込

・6月10日(日) 午後1時30分～3時 ※要申込

### ■ お問い合わせ先

(一財) 世田谷トラストまちづくり トラストみどり課

TEL 03-6407-3312 FAX 03-6407-3319

財団 HP <http://www.setagayatm.or.jp/>

< 2018年4月下旬より移転予定 TEL 03-6379-1624 FAX 03-6379-4233 >

## ☆ 川崎市域水辺の楽校

### 川崎市域水辺の楽校開催予定

かわさき水辺の楽校	だいし水辺の楽校	とどろき水辺の楽校
	3月17日(土) 10:00~12:00 自然観察会	3月25日(日) 10:00~12:00 多摩川クリーンアップ&焼き芋大会
5月13日(日) 水辺の楽校開校式 今年の魚釣り	4月28日(土) 10:00~12:00 干潟観察会と開校式	4月29日(日) 開校式 ガサガサ・植物観察・紙芝居
5月27日(日) 水辺の楽校三校合同 干潟観察会 (干潟観周辺)	5月27日(日) 水辺の楽校三校合同 干潟観察会 (干潟観周辺)	5月27日(日) 水辺の楽校三校合同 干潟観察会 (干潟観周辺)
		6月3日(日) 安全教室

#### ■お問い合わせ先

NPO 法人 とどろき水辺の楽校

理事・事務局 鈴木真知子

〒212-0004 川崎市幸区小向西町三丁目64 電話：044-201-1493 携帯：090-5814-9604

MAIL：info@todoroki.org HP：http://www.todoroki.org

## ☆ NPO 法人 砧・多摩川あそび村

### 「きぬたまあそび村」

毎週3日、多摩川の自然体験遊び場を開園しています。どなたでも無料で遊べます。

日 時：毎週月・水・土 3月まで10時30分～16時30分

4月から10時30分～17時

場 所：多摩川河川敷二子緑地せたがや水辺の楽校はらっぱ

アクセス 東急田園都市線・大井町線「二子玉川駅」徒歩20分

東急バス 砧本村行き バス停都市大グラウンド前下車1分

成城学園行き バス停砧南中学校前下車4分

### ★イベント案内

- ・3月24日(土) ヨモギ団子づくり
- ・4月28日(土) 野草の天ぷらづくり

講 師：多摩川博士えのきん 材料費：200円

日時と場所：いずれも原っぱの野草を摘んで、「きぬたまあそび村」の活動内で行います。

#### ■お問い合わせ先

NPO 法人 砧・多摩川あそび村

〒157-0077 世田谷区鎌田1-19-1-101

TEL 03-6447-9931 MAIL info@kinutama.com

HP <https://kinutama.com/> ブログ <http://asobimura.exblog.jp/>



## ☆ NPO 法人多摩川エコミュージアム

### 第14回 多摩川 桜のコンサート

日 時： 4月7日(土) 11時～15時 無料  
 場 所： 二ヶ領せせらぎ館 (雨天時は館内で一部開催)  
 内 容： 二ヶ領用水沿いの桜の花の前でのコンサート  
 主 催： 川崎市 NPO 法人「多摩川エコミュージアム」

写真は、2017年4月1日(土)開催  
 「第13回多摩川桜のコンサート」の様子です。



### ミズベリング

日 時： 7月7日(土) 18時～20時30分 予備日なし  
 場 所： 二ヶ領せせらぎ館下河川敷  
 内 容： 夕涼みコンサート、七夕飾りづくり (アユの短冊など)  
 関係イベント：かわさき色輪っかつなぎ (二ヶ領せせらぎ館下河川敷)  
 主 催： NPO 法人「多摩川エコミュージアム」

### 第11回 エコ★カップいかだ下り

日 時： 8月4日(土) 10時～13時 予備日なし  
 場 所： 二ヶ領せせらぎ館 宿河原堰下  
 内 容： 参加者が廃材で作ったイカダでレースを行いレース後、解体し分別ゴミ処理タイムレースではなく、川を楽しみながら多摩川を約1 km下ります。

参加条件：参加費 1,000円/人 5名以内のチームとして参加し、そのうち1名は、5歳以上12歳未満のお子様をお願いいたします。

募集期間：5月10日(木)～6月10日(日)

主 催： NPO 法人多摩川エコミュージアム

後 援： 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所、川崎市

写真は、2017年8月5日(土)開催  
 「第10回エコ★カップいかだ下り」の様子です。



## ■お問い合わせ先

二ヶ領せせらぎ館 (にかりょうせせらぎかん)

電 話：044-900-8386

住 所：神奈川県川崎市多摩区宿河原1-5-1

開館時間：10:00～16:00 5月～8月の土・日・祝日は 9:00～16:00

休館日：毎週月曜日 (祝日の場合はその翌日)

U R L : <http://www.seseragikan.com/>

## ☆ (一社) 生物多様性アカデミー / NPO法人せたがや水辺デザインネットワーク

スマホを用いた「春の多摩川の水辺の外来植物さがし」参加者募集のお知らせ

日 時： 2018年5月13日(日) 10時～15時30分

5月19日(土)(雨天順延日)

場 所： 東京都市大学 二子玉川夢キャンパス (集合と午後のワークショップ)

所在地 東京都世田谷区玉川二丁目21番1号 二子玉川ライズ・オフィス8階

兵庫島公園 (午前 外来植物調査場所)

参加費： 無 料

内 容： 河川敷には多くの植物が生育していますが、最近では海外から持ち込まれた外来植物が増えています。最新の水辺の国勢調査の結果では、多摩川の水辺の植物の約2割は外来種と報告されています。しかし、この調査は極めて限られた地点でしか実施されておらず、行政、研究者の調査だけでは、実態を十分に把握するには不十分です。そこで子供たちと市民の力でスマホを利用して外来植物の調査を行い、その分布をマップに書き込み、その日のうちにみんなで情報共有します。多摩川に気づかないうちに入り、増えている外来植物の視点から、多摩川を見直してみませんか？

主 催： 一般社団法人生物多様性アカデミー、NPO法人せたがや水辺デザインネットワーク

協 力： 東京都市大学、二子玉川エリアマネジメンツ

### ■お問い合わせ先

一般社団法人生物多様性アカデミー

U R L : <http://bda.or.jp> M A I L : [cnc-tokyo@bda.jp](mailto:cnc-tokyo@bda.jp)

NPO法人せたがや水辺デザインネットワーク

M A I L : [s.nakanishi@setagaya-mizubedesign.org](mailto:s.nakanishi@setagaya-mizubedesign.org) 担当中西宛

※詳細は、4月1日以降に東京都市大学夢キャンパスのURLへアクセスください。

## ☆ 東京都市大学 / (一社) 生物多様性アカデミー

City Nature Challenge 2018 - Tokyo

2018年の春に世界の66の都市で同時に、各都市の生き物の写真を撮影してマッピングし、見つけた生き物の種数、参加人数を競う世界で初めてのイベントを開催します。

世界の生き物情報を共有し、自然科学の発展にも貢献できます。

開催日：4月27日(金)から4月30日(月)の4日間

東京のどこからでも誰でもが、楽しみながら生き物を見つけ、その写真をアプリから投稿します。投稿した生き物の名前が分からなくても、事前登録した自分のメールアドレスに、専門家から種名などの情報が送られてきます。

4月の東京でのイベント前は「City Nature Challenge 2018-Tokyo」に登録すれば、今から全国のどこからでも誰でもが、手軽に写真を投稿できます。登録・投稿はQRコードまたはURLからアクセスできます。このプロジェクトの企画団体はカリフォルニア科学アカデミーとロサンゼルス自然史博物館で、日本ではTokyoがエントリーし、Tokyoの主催団体は、東京都市大学と(一社)生物多様性アカデミーです。グループ参加(ご協賛)、ご協力、ご後援いただける団体や企業は、(一社)生物多様性アカデミーまでMAILで、お問合せをお願いします。

世界の60以上の都市の生き物情報を  
スマホやタブレットでつなげる市民科学プロジェクト！

# TOKYO

## City Nature Challenge 2018-Tokyo 参加のおねがい

参加無料

2018. 4.27- 4.30

世界中の大都市の市民が植物や動物を撮影してマッピングすることで、世界の生き物の情報を共有し、自然科学の発展にも貢献できるプロジェクトです。

東京も参加します！

本イベントは2018年4月27日～30日の4日間で行います。東京を舞台に、世界の参加者と生き物の種数や参加人数の多さを競いあながら楽しみましょう！

生き物の写真や情報を投稿すると...

投稿した動物種の名前は分からなくても、ネットを通して専門家が特定し、自分のメールへ通知が送られます。専門家や他の参加者とも共有が可能です。

このプロジェクトを通じて、各都市の市民、子どもたちが都市の生き物の豊かさを発見し、研究者や多様な組織と情報を共有しながら、国際的な生物多様性のデータベース (GBIF) や研究にも貢献できます。

4月のイベント前はウェブサイト「City Nature Challenge 2018-Tokyo」に登録すれば、だれでも手軽に写真を投稿できます。

以下のスケジュールと画面を参考に登録し、今から写真を投稿しましょう！

期間	エリア	観察	投稿	情報共有
4/27 以前	日本全国	○	○	
4/27～4/30	東京のみ	○	○	
5/1～5/3	全世界			○

（一社）生物多様性アカデミー

登録・投稿の方法はこちらから！

オーガナイザーからの一言

2018-Tokyo オーガナイザー  
小堀 洋美  
（一社）生物多様性アカデミー 代表理事

「iNaturalist」という、世界で54万人が参加する「種の多様性」に関する市民科学プロジェクトのプラットフォームを用いたイベントです。世界の都市を対象とした初の試みに、日本では東京が参加し、楽しみながら、生き物と人がつながることを願っています。4月末のプロジェクト開始以前は企業のご協力でも参加ができますので、登録して、写真を送ってください。

グループ参加・協力・協賛のお誘い

グループ参加・協力・協賛していただける企業や団体の方は、以下までお気軽にお問い合わせください。

（一社）生物多様性アカデミー CNC-Tokyo受付  
cnc-tokyo@bda.or.jp

世界プロジェクト企画：カリフォルニア科学アカデミー / ロサンゼルス自然史博物館  
Tokyo企画：東京大学 / （一社）生物多様性アカデミー

# City Nature Challenge 2018-Tokyo 参加マニュアル

「City Nature Challenge 2018-Tokyo」のイベント参加希望の方は4月27日以前にサイトにアクセスして登録を完了させてください。

本マニュアルでは「City Nature Challenge 2018-Tokyo」をご紹介しています

アプリのダウンロードはこちらから

1 登録方法

STEP 1 右上のQRコードから「iNaturalist」アプリを取得

STEP 2 アプリでユーザー登録（ユーザー名、メール、パスワード）を行うとアカウントが開設し、ユーザー名とパスワードには文字と数字、ハイフンのみ使用可能です。

STEP 3 メニューバーの「プロジェクト」からCNC-Tokyoを選択します

STEP 4 CNC-Tokyoに参加してプロジェクトメンバーに！

2 写真撮影と観察記録の登録

STEP 1 撮影時の注意

写真は、角度や焦点を変えて2～3カット撮影してください

- 1) 動物物ともに全体を撮影
- 2) 植物は花・蕾・葉などを撮影
- 3) 動物は正面、横・上からなど色々な角度で撮影

STEP 2 「何を見ましたか？」をタップすると、撮影した写真と類似の候補がリストアップされるので選択するか、種名が分かる場合は入力。（未記入で次へ進んでもOK）

STEP 3 「詳細」ページでスマートフォンで複数撮影が可能

STEP 4 登録完了！

早ければ24時間以内に投稿した生き物に関する情報が、専門家から「iNaturalist.org」を通じてアカウントに送られてきます！

毎週CNC-Tokyoに投稿された情報が共有されています！

情報 東京都立大学二子玉川キャンパス URL yume-campus.tcu.ac.jp/news/3005  
問い合わせ （一社）生物多様性アカデミー URL bda.or.jp/en/ MAIL cnc-tokyo@bda.or.jp

ご登録・投稿は下記QRコードからおねがいます。  
(情報は随時更新しております)



■お問い合わせ先

一般社団法人生物多様性アカデミー  
URL <http://bda.or.jp>  
MAIL [cnc-tokyo@bda.jp](mailto:cnc-tokyo@bda.jp)

# とうきゅう環境財団 一年のうごき

## 1 事業日誌 (2017年1月～2017年12月)

1月13日	2017年度助成研究・活動の公募締切 (応募件数43件) (新規36件 継続7件)
3月1日	財団だより“多摩川”第150号発行
3月8日	第59回定時選考委員会を開催 ～2017年度助成研究・活動を採択 新規 (学術研究 7件、一般研究 5件) 継続 (学術研究 4件、一般研究 3件)
3月9日	第18回理事会による決議 ～2017年度事業計画・収支計画の承認 ほか
3月24日	第14回評議員会による決議 ～2017年度事業計画・収支計画の承認 ほか
3月24日	2017年度事業計画を内閣府に提出
3月31日	2016年度 助成研究・活動成果報告書提出締切
4月1日	第9回社会貢献学術賞 推薦依頼開始
5月4日	第30回多摩源流まつり後援 開催場所：小菅村4, 299番地 「第1スポーツ広場」及びその周辺
5月11日	第19回理事会を開催 ～2016年度事業報告・決算の承認 選考委員10名の選任 ほか
5月11日	選考委員の互選により選考委員会委員長を選定 (田畑貞壽氏)
5月29日	第15回評議員会を開催 ～2016年度事業報告・決算の承認 理事10名、監事1名、評議員2名の選任
5月29日	第20回理事会による決議 ～代表理事、業務執行理事の選任
6月1日	環境学習副読本「多摩川へいこう」の増刷・贈呈 (2017年末までに 多摩川流域の小学校49校へ5,180部)

6月27日	2016年度事業報告等を内閣府に提出
7月19日	2017年度助成金贈呈式を、渋谷エクセルホテル東急で開催 ～新規研究者12名、継続研究者7名に助成金を贈呈 研究者および来賓、評議員、理事、選考委員など約80名が出席
8月3日	水環境ひろば ～市民科学と下水道～ 参加 主催：国土交通省、水環境ひろば実行委員会 開催場所：東京ビッグサイト 会議棟1階102号室
8月19日	第2回シンポジウム「水と緑の回廊・玉川上水・分水網 多摩から江戸・東京をつなぐ 水循環の保全再生～東京オリンピック・パラリンピックを契機として～」 協賛と参加 開催場所：東京都江戸東京博物館大ホール 主催：玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会
8月28日	財団設立43周年を迎える
8月31日	第9回社会貢献学術賞 推薦締切
9月1日	財団だより“多摩川”第151号発行
9月1日	2018年度助成研究の募集を開始
9月27日	第9回社会貢献学術賞選考委員会を開催 ～明治大学農学部教授 倉本 宣氏に決定
11月20日	2017年度 第9回社会貢献学術賞贈呈式をセルリアンタワー東急ホテルで開催 ～受賞者（倉本 宣氏）および来賓、評議員、理事、選考委員など約70名が出席
12月1日	財団だより“多摩川”第152号発行
12月9日	東京都市大学「私立大学研究ブランディング事業選定記念シンポジウム」参加 ～未来都市研究機構 キックオフシンポジウム 「魅力ある未来都市創生に貢献するエイジングシティ研究および実用化の 国際フロンティア」 『グリーンインフラの整備およびマネジメント』等についての発表
12月22日	産官学意見交換会（主催：国土交通省京浜河川事務所、会場：川崎市内）に参加 ～堤防保全事業で発生する刈り草の有効利用等についての意見交換

## 2 研究助成事業

当財団では、2017年度研究助成金贈呈式を、7月19日渋谷エクセルホテル東急で開催し、4月を開始月とする新規の助成研究12件に助成金を贈呈いたしました。

2016年度からの継続研究7件も承認されていますので、本年度は19件を助成していることとなります。ここに全助成研究をご紹介します。また2016年度までに完了した助成研究に関する成果報告書（学術8件、一般8件）の概要他を掲載します。

### < 新規助成研究 >

#### 学術研究

多摩川水域における希土類元素の存在分布とその起源に関する研究—主としてMRI造影剤用のガドリニウム濃度との関連性について—



井上 一雅 (イノウエ カズマサ)

首都大学東京大学院

人間健康科学研究科放射線科学域 准教授

近年、先進国を中心として河川や内湾の水に含まれる希土類元素ガドリニウムの濃度が、他の希土類元素と比較して顕著に高いことが報告されている。その原因として、現代医療における画像診断で必要不可欠なMRI検査で用いられているガドリニウム造影剤が原因であると考えられている。ガドリニウム造影剤は、MRI検査用に開発されてから約30年が経過しているが、近年の医療技術の進歩により使用量が急激に増加していることが背景にある。特にガドリニウム造影剤起源による河川等の汚染が深刻な問題となっているのは、MRI装置の保有台数で世界1位(12,137台)のアメリカであり、それに対する対応策が検討されつつある。一方、日本はアメリカに次ぐ世界2位の装置保有台数(6,578台)であるが、これに関わる調査は行われていないのが現状である。これまでに多摩川水系では大規模な希土類元素ガドリニウム濃度の分布調査が実施されておらず、またガドリニウム濃度と周辺環境(地形、医療機関数、人口)との関連性に関する報告もない。多摩川水系は世田谷区及び大田区を通過しているため、医療機関数及び人口が他の水系と比較して多いため、日本国内の代表的な調査結果となる。また、本調査結果次第では、日本国内のすべての水系において調査の必要性を示す根拠データとなる可能性がある。

都市型河川における魚類の遺伝的多様性



吉永 龍起 (ヨシナガ タツキ)

北里大学海洋生命科学部 准教授

多摩川では、1970年代に水質汚濁による環境悪化で様々な生物が姿を消したものの、現在では水中環境は改善され生物が再生してきている。多摩川には、2種のウグイ属魚類(ウグイとマルタ)が生息している。ウグイは一生を河川内で過ごす淡水魚であるのに対し、マルタは海で成長する遡河回遊魚である。人為的に放流されているアユとは異なり、ウグイ属は自然に再生産が営まれており、春にマルタが大集団で繁殖する様子は、遊歩道からも観察できる。また、釣りの対象魚としても親しまれており多摩川のマルタ釣りは春の風物詩となっている。このようにしてウグイ属は大都会を流れる多摩川と市民の豊かな関係を築ききつかけとなっている。多摩川においてマルタが繁殖する際に、ウグイも集団の中に含まれていることが観察されている。これら2種は交雑できることが知られているが、多摩川における実態は不明である。また、多摩川本流のウグイは人為的に移入された個体群であるが、源流の小菅川には固有の遺伝的特性を有するウグイがいると考えられている。すなわち多摩川水系のウグイ属魚類は、多摩川固有の個体群と移入群、マルタ、およびこれらの交雑個体から構成されていると予想される。これまでの自然再生は、かつていた種がその場所に戻ることを目的としていた、一方、生物多様性を真の意味で維持するためには、河川に固有の遺伝的特性を持つ個体群が生息することが重要である。そこで本課題では、多摩川のウグイ属を対象にして遺伝的特性を明らかにした上で、各個体群の形態的特性および産卵生態を解明し、都市型河川が育む生物多様性の実態を明らかにすることを目的とした。

## 多摩川集水域 50 地点定期モニタリングによる放射性セシウム蓄積スポット調査



小池 裕也 (コイケ ユウヤ)

明治大学理工学部応用化学科  
専任講師

福島第一原子力発電所事故により放出された放射性セシウムの蓄積スポットの把握及び河川水への溶出・移行メカニズムの解明を行うため、厳選した多摩川集水域 50 地点で同一時期のサンプリングを四季にあわせ定期的を実施する。放射性セシウムの上流から下流への移行や局所的な蓄積が確認されているため、詳細かつ高精度な放射性セシウムの挙動解析を実施する必要がある、多摩川集水域全域で放射性セシウムが真に検出されなくなるまで実施できるモニタリング手法を確立する。通常、放射性セシウムが極低濃度で「不検出」とされる河川水について、水に溶けているセシウム（溶存態セシウム）と浮遊物質に吸着しているセシウム（懸濁態セシウム）の形態別定量値も得るべく、分析の超高感度化についても検討する。放射性セシウムの局所的な蓄積スポットの把握が最終目標であり、その目標を達成するために四半期ごとに実施できる簡便迅速な現地分析手法と大容量濃縮技術を提案したい。放射性セシウムの存在形態を特定することは、多摩川集水域での汚染状況の把握にとどまらず、高線量地域での河川集水域における除染対応にもつながる貴重な情報になると考えている。

## 多摩川の河川水、及び河川底の環境 DNA 解析による微生物叢解析 —微生物を指標とした河川管理ガイドラインの提案の試み—



齊藤 玉緒 (サイトウ タマオ)

上智大学理工学部物質生命理工学科  
教授

本研究では多摩川に潜む細菌叢の全体像を明らかにするため、培養を介さない 16 S アンプリコン解析を中心にメタゲノム解析を行う。これによってこれまで解析が困難であったため見つけ出すことができなかった、細菌による水質汚染を検証し、多摩川の環境保全・改善に資することを目的とする。予備的な実験から多摩川の微生物叢は支流の影響を大きく受けていることが示唆されている。この実験結果は、これまで典型的な河川水（陸水）域の微生物叢は支流の影響をあまり受けないとされて

きた説を覆すものである。さらにこの支流の影響については水質の化学的データだけでは検証ができていないことが分かったので、特に本流と支流の微生物叢の関連を中心に解析を進める。本研究では安心安全な親水域、多摩川の環境保全に向けて、微生物を指標とした河川管理ガイドラインの提案を試みる。

## 多摩川の潜在的な希土類元素汚染と水生生物に対する生体影響の解析



関本 征史 (セキモト マサシ)

麻布大学 生命・環境科学部  
准教授

カドミウム、水銀、亜鉛などの重金属類による河川の汚染は、水生生物やヒトに対して悪影響を及ぼすことから、水質汚濁に係る環境基準（人の健康の保護に関する環境基準、生活環境の保全に関する環境基準）が定められている。また、その他の重金属についても要監視項目・要調査項目として、その河川中濃度が注視されている。これら環境基準項目を指標として考えれば、現在の多摩川は比較的清浄であると考えられる。しかし最近、他の一級河川では、日常的に測定が行われていない希土類元素による潜在的な環境汚染が起こっていることが明らかとなってきた。したがって、多摩川においても、表面に現れない未規制物質による汚染や、それらの複合汚染による水生生物への影響が懸念される。本研究では、「毒性バイオマーカー遺伝子の発現変動」を指標として、多摩川流域の希土類元素による潜在的な汚染を評価する。本研究の最大の利点は、分析機器による定量のみでは明らかにすることが困難であった「生物に対する毒性の有無を予測できる」ことである。これまでに、希土類元素の一部については貴財団の研究にて測定例があるものの、その水生生物への影響は明らかでなかった。本研究の推進により、貴財団のこれまでの研究成果にさらに付加価値を与えるとともに、多摩川のより良好な環境作りに大きく貢献することを目指している。

## 多摩川流域所在アーカイブズの情報集約・公開に関する調査・研究 ―地域持続のために―

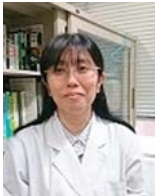


宮間 純一 (ミヤマ ジュンイチ)

大学共同利用機関法人  
人間文化研究機構国文学研究資料館 准教授

本調査・研究では、多摩川流域地域において将来的に予想される自然災害や人口減少に備えて、同地域の博物館・資料館・文書館等の機関及び民間で保管されているアーカイブズ（歴史的文書）の所在情報の集約・共有化を行い、研究者コミュニティ・地域での情報共有を目指す。本調査・研究により、多摩川流域の文化・環境等に関する研究の基盤となるアーカイブズの情報を整備し、広く提供する。あわせて、アーカイブズ学／歴史学の立場から、アーカイブズの所在情報の集約方法、地域と研究者で共有化すべきデータの内容・種類、データの発信方法等について検討し、地域資料をよりよいかたちで後世へ伝える方法を検討する。本調査・研究によって、従来培われてきた研究成果をさらに発展させることに貢献したい。

## 多摩川上流部の里山林における菌類多様性評価 ―里山林は樹木共生性きのこの種多様性の受け皿となりうるか―



田中 恵 (タナカ メグミ)

東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科  
准教授

里山林は流域周辺の地域住民にとって、最も身近な自然環境であると同時に、希少種の生息・生育地としての機能を持つ。そのため、地域の生物多様性保全を考える上では、里山林を適切に管理・維持し続けることが必要と考えられている。里山林の生態系が健全に機能しうるためには多様な微生物の働きが欠かせない。中でも菌根菌は地下部で樹木と共生する菌類であり、樹木はそのことにより環境適応性を高めている。特に里山二次林に見られるコナラやアカマツ、シイやカシは普遍的に外生菌根菌と共生関係を結んでいる。また、樹木共生菌はそれ自体が希少な種（トリュフなど）を有している。希少性の高い、もしくは経済的価値の高い樹木共生性きのこは、意外なほど身近な里山にこそ存在することが多いが、これらの種の把握はほぼ行われていない。

本研究は多摩川上流部の里山林において、樹木共生菌類の多

様性と地上部植生との関係を明らかにし、今後の里山整備を考えるデータを提供することを目的とする。あわせて希少性の高い樹木共生性きのこの探索を行うことで身近な里山林が樹木共生菌類の受け皿としてどの程度機能しているか検討する。

### 一般研究

## リネン布を使用した多摩川全域にわたる定点観測地点における流水内の放射性核種の量の調査



清宮 祥子 (セイミヤ ショウコ)

特定非営利活動法人 R.I.La  
理事長

2015年10月～2016年9月にかけて実施した「多摩川におけるリネン布を使用した水質内の放射性核種調査」の調査結果を踏まえ、より現状の調査を深耕させ、調査範囲を拡大すると共にその調査方法に特定の施設並びに構造物から排出される排水並びに汚泥に含有する放射性核種を、直接検体として捕獲せしめる調査方法を採用し、その測定方法の実用化、検証試験を実施し、広く東日本全体で発生している河川の放射能汚染のメカニズムを解明していくことによって、行政にはその汚染を防止する提言を行い、また、河川を利用する方々には危険個所の注意喚起をすることによって無用な被ばくを防止し、また安全が確認された場所については、安全・安心に子供達にその場所で自然と接することができる環境を提供することを目的といたします。

## 多摩川流域（東京都域）における絶滅危惧種ハヤブサの生態に関する調査研究



御手洗 望 (ミタライ ノゾム)

多摩クマタカ生態調査チーム

本調査研究では、多摩川流域（秋川流域を含む）、特に東京都多摩地域の山地・丘陵部でのハヤブサの生息分布及び繁殖状況を明らかにすることを主な目的とする。対象とするハヤブサ科ハヤブサは、「種の保存法」では「国内希少野生動植物種」、環境省レッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類に指定され、国内で絶滅が心配されている鳥類の一つである。一方で、東京都



は過去に体系的な生息分布調査は行われておらず、確実な繁殖記録もない。多摩クマタカ生態調査チームでは2006年から調査を多摩川流域において、同じく絶滅危惧種の猛禽類であるクマタカやサシバの生息分布・繁殖状況の調査を実施しているが、その過程においてハヤブサの生息情報・繁殖情報を収集してきた。その結果、2016年現在ハヤブサの繁殖地や繁殖の可能性が高い地域として7～8ヶ所を把握できた。調査範囲でのハヤブサの生息分布、繁殖地の確認、繁殖状況の経過確認を行い、多摩川流域の東京都内での生息範囲、繁殖つがい数、繁殖地、繁殖成功率、営巣環境、クマタカ等の他の猛禽類との関係性、人の活動による脅威等について明らかにすることを目的とする。

## 多摩川の主に漁撈、漁具、漁法に関する古文献、写真等のデジタル化に関する調査



山道 省三 (ヤマミチ ショウゾウ)

特定非営利活動法人  
多摩川センター 代表理事

申請者は現在、多摩川やその流域に関する図書、論文、映像資料等を多数収集している。こうした資料を保存するとともに、多摩川に関心を持つ市民に広く公開したいと考え、多摩川資料の収納庫及び複数の展示施設を設置する計画を持っている。現在、東京都、国土交通省京浜河川事務所、流域の住民団体の協力のもと、多摩川資料庫及び複数箇所での映像及び文献展示、閲覧場所の開設を計画している。その準備として、写真、文書等のデジタル化を進め、資料を分類、整理し、後年公開したいと考えている。

特にこの半年の間に、多摩川の漁撈、漁撈文化に関する膨大な文書、写真の提供を受けたことから、そのデジタル化を行いたい。

## ICレコーダーを利用した多摩川上流部及び東京都山間部における絶滅危惧鳥類と希少鳥類の生息調査



鈴木 浩克 (スズキ ヒロカツ)

1964年生まれ。小学五年生より野鳥観察を始め、中学三年生のときに日本野鳥の会主催の野鳥鳴きまねコンテストで日本一になる。現在は有機農産物の流通を職としながら、録音を通じて野鳥の声の世界を探求している。

ミゾゴイ、オオコノハズク、コノハズク、フクロウ、アオバズク、ヨタカなどの絶滅危惧種、希少鳥類の多摩川上流部及び東京都山間部における生息は、まれな観察記録はあるものの、全体的な分布、生息密度はあきらかにされていない。これらの鳥類は夜間にさえずりを行い、人間の生活時間の逆となるため、他の昼行性鳥類よりも発見されにくい側面がある。私は近年普及したICレコーダー（タイマー機能を有するもの）を利用し、夜間のタイマー自動録音を実施し、これまで東京都での繁殖記録が途絶えたとされるオオコノハズクの営巣なども確認した（2016年）。この手法で、より多くのレコーダーを用いて録音調査を行えば広域での生息状況をあきらかにできる。また、皆伐斜面に好んで営巣するヨタカも、近年非常に数を減らしているが、東京都山間部に点在する皆伐斜面を録音調査することで、生息状況を確認できる。この調査で生息分布、密度や好適環境などを明らかにし、今後の種の保護、環境の保全に役立つ資料としたい。

## 多摩川流域の地下水の文化、価値を継承する次世代教育のためにコミュニケーションを重視した「水を守る」「水を活かす」リーダーとなる人材育成



大嶽 貴恵 (オオタケ タカエ)

環境まちづくりNPO エコメッセ  
理事長

近年昭島市は自治体も昭島の水のブランド化を目指している。なお一層、昭島の地下水や水文化を守り、水の魅力をPRする市民が増えることが求められている。

水を守る人、特に子どもも巻き込んだ取り組みが次世代へ昭島の地下水の価値を繋ぐ人材育成の鍵となる。

市民・教員・市職員の垣根を越えて参加したメンバーが中心となり、多摩川流域の地下水の文化、価値を継承する次世代教育に関わる人材となり、このプログラムで昭島の地下水を継承する人材が組織化される。そこで（公財）河川財団の持つプログラムを使い、ステークホルダーとなる市民、学校教育現場の教員、昭島市職員（環境部や水道部等）がプロジェクトWET講習会を受講し、2年間で指導者（エドゥケーター）を地域に30人育成する。その後、エドゥケーターが中心となり今後、昭島（多摩川流域）の地下水にまつわる文化、価値を継承するための「水を守る」「水を活かす」リーダーとして、地域でプロジェクトWETの手法を使い、学校現場で子どもたちに、そして環境緑花フェスティバル等のような市民に開かれた場でプロジェクトWET講習会を開催する。

## < 継続助成研究 >

### 学術研究

#### 多摩川上流域における落葉分解性水生不完全菌類の多様性とその落葉破碎食水生昆虫に対する意義の解明



佐藤 大樹 (サトウ ヒロキ)

国立研究開発法人  
森林研究・整備機構森林総合研究所  
森林昆虫研究領域長

河畔より河川に流入した落葉は、微生物および破碎食者と呼ばれる一群の水生昆虫により分解される。落葉は、特に水生不完全菌(糸状菌)による変成を受け、餌としての質が高められた後に昆虫の摂食により分解される。そこで、糸状菌が支える昆虫の多様性を解明したい。しかし、一水系に着目した糸状菌の多様性調査は殆ど未着手分野である。破碎食者では標高や河畔植生による分布の違い、餌となる落葉の樹種に対する選好性の違いが知られつつある。しかしこれらの違いに餌生産者として介在する糸状菌の多様性の影響については未解明である。本研究では、まず多摩川上流域において、標高や植生による糸状菌相の違いとそれらの温度、基質に対する成長特性の違いを明らかにする。続いて破碎食者の分布と糸状菌相との対応、および菌種の選好性を解明し、破碎食者の多様性に関わる糸状菌の多様性の意義を解明することを目的とする。

本研究の成果は、河川環境のモニタリングおよび多摩川の環境評価の上で、以下の点で有用といえる。1) 水生不完全菌類における一つの水系の種類相の調査として、きわめて独自性のある成果である。2) 多摩川水系において作成される菌類種リストは、日本各地の菌類多様性調査において結果の比較対象とされ、データベースとして汎用性が高い。これは、異なる標高や河畔植生の河川環境が近接する多摩川水系ゆえに得られる成果である。3) 落葉分解を促進することで河川生態系において重要な役割を担う破碎食水生昆虫について、分解活動を支える個々の菌種を明らかにする国内初の研究である。4) 標高や植生に伴う菌類相と破碎食水生昆虫群集の対応関係の変化が明らかにされる。これは、国際的にも新奇性の高い成果である。5) 多摩川の種多様性モニタリングにおいて、菌類相と昆虫群集の関係性が考慮された新たな知見を提供する。

#### 多摩川河口域に飛来する野鳥の保護にむけた寄生虫感染状況の調査



彦坂 健児 (ヒコサカ ケンジ)

千葉大学大学院医学研究院  
感染生体防御学 特任講師

多摩川の河口付近には干潟が残り、豊かな生態系が形成されている。この干潟に飛来する野鳥は20,000羽を超え、その種もラムサール条約における個体数の1%以上と多様である。また、この中には絶滅・準絶滅危惧種に指定されている鳥類も多く含まれる。このことから多摩川河口域は国際的に見ても重要な野鳥が生息する湿地であるといえる。野鳥には、回虫や住肉胞子虫、トリコモナス、ヘモプロテウス、ジアルジア、クリプトスポリジウム、コクシジウムといった数多くの寄生虫が感染している例が報告されている。なかでも、コクシジウム(主にEimeriaおよびIsospora属原虫)は鳥類に感染すると下痢を引き起こし、集団流行することで著しい数の野鳥が死に至ることが観察されている。例えば、本邦に飛来するツルではコクシジウム症の感染による生息数減少の報告があり、コクシジウム症は野鳥保護の観点から重要な疾病である。また、コクシジウム以外でもジアルジアやクリプトスポリジウムはコクシジウムと同じ腸管寄生性原虫であるが、糞便と共に環境中に放出され人獣共通感染症を引き起こすため公衆衛生上問題となる病原体である。しかし、これまでに多摩川河口域における野鳥の寄生虫感染状況はよくわかっていない。そこで本研究では、野鳥の生態と寄生虫感染状況の関連性を解明することを目的とした。本申請研究で得られる成果を多摩川河口域の野鳥の保護及び環境保全につなげていきたいと考えている。

#### 多摩川中流域に残存する谷戸地形(都立農業高等学校附属神代農場)の生物多様性に関する研究と谷戸地を利用した環境教育



小作 明則 (コサク アキノリ)

一般財団法人進化生物学研究所

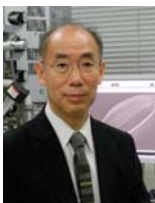
多摩川中流域、野川の水源となる国分寺崖線上に唯一残存する東京都立農業高等学校附属神代農場内の谷戸地形は周辺地域

が宅地開発される中、江戸期以来の地形ならびに動植物相を現在も維持しているタイムカプセルのような存在である。一例としては昆虫ではゲンジボタルが生息し、植物ではカタクリの群落が維持されていることなどが挙げられる。これまで当農場谷戸地では、一時的かつ部分的な調査研究はあるものの土壌の解析まで含めた総合的な調査・研究はおこなわれていない。今回は既存資料も含め水、土壌、動植物についての基礎研究データの収集・解析ならびに調査の実施を試みる。これと平行して今後この市街地の中に唯一島状に取り残された貴重な地形ならびに生物環境をどのように保全維持すべきかを検証し、高等学校の環境教育の中で地域貢献も視野にいれ、実施する基礎研究に基づいた環境保全、環境教育ならびに地域貢献策を提示したい。一年目におこなわれた調査研究結果を踏まえ高等学校教員、生徒、研究者そして地域住民も交え環境教育と地域貢献についての具体的検討と実践を企画・実施する。具体的に以下の項目についてそれぞれ谷戸地自然環境と在来農業の資料館としての役割、地域の自然環境の持つ生物多様性維持のための活動拠点とする。高等学校教育課程における環境保全・維持教育についてプログラムの提案をおこなう。

#### 手順

1. それぞれの研究分野における既存データの整理と評価
  2. 一年目：新規調査（土壌、土壌動物、4足獣分布など）、追加調査（毎木調査、湧水量調査、湧水温調査など）
  3. 一年目調査結果報告：江戸期以来の生物多様性維持の観点から各種データの整理と評価をおこなう。
  4. 二年目：一年目に得られた結果をもとに
    - ・生物多様性のために谷戸地においてどのような維持管理方法があるかの検討と試験実施。
    - ・国分寺崖線に残された唯一の谷戸農地の自然環境と在来農業の資料館的な在り方の検討をおこなう。
- 高等学校教育課程における環境保全・維持教育に今回の研究結果を踏まえたプログラムの検討と提案をおこなう。

## 多摩川の河口干潟における珪藻の種多様性と群集ダイナミクスの解明



真山 茂樹 (マヤマ シゲキ)

東京学芸大学教育学部 教授

多摩川の殿町干潟は典型的な河口干潟である。河口干潟では海水の干満により、塩分濃度が大きく変動するうえ、流速や流れの方向も経時的に変化する。また、上流から流入する窒素や

リンの量は珪藻の生育に影響を及ぼす。さらに、珪藻が付着する干潟の底質は淡水域から運ばれる粒子と、海から遡上する粒子の影響を受ける。加えて、干潟は干潮時には干出す場所であり、珪藻は定期的に乾燥や強光度にさらされる。このように環境条件が著しく変動する場所である。

珪藻は干潟環境における最大の生産者であるにもかかわらず、分類が難しいため種レベルでの研究はほとんど行われてこなかった。本調査試験研究では多摩川の河口干潟における珪藻種の多様性を明らかにすると共に、群集組成の変動と環境要因との関係を解明する。さらに、東京湾内の前浜干潟に生育する珪藻群集との比較を行い、河口干潟環境における珪藻群集の特性を明らかにする。

また、近年多摩川河口域におけるシジミの大増殖や、全国的に問題となっているアサリ収穫量の減少といった水産系の現象や問題の解明に役立てることが期待される。

さらに、河川水質と珪藻群集とのリニアな関係が明らかになれば、淡水域同様、干潟が立地する汽水域においても、珪藻を用いた水質評価が行える方向性を示すことができる。

このように本調査・試験研究は、河川浄化に関わる環境評価や環境保全事業活動に対し、生物多様性、群集構造および指標性の観点から基礎データを提供できる。

### 一般研究

## 多摩川中流域におけるカヤネズミ生息情報マップの作成と保全の提言



井上 太志 (イノウエ フトシ)

自然観察活動チーム

Wild Lives Watchers 代表

本調査研究では、多摩川中流域の特に河川草地帯におけるカヤネズミの生息分布状況を詳細に把握し、今後のカヤネズミの生息地保全の必要性を提言するための基礎情報資料の作成を主な目的とする。

本調査研究において対象とするカヤネズミは、1都2府28県で絶滅危惧種に指定されており、東京都レッドデータブックにおいても絶滅危惧Ⅰ類に指定されているほどに危機的な状況に晒されている（東京都ではエリアによって絶滅とされている）。カヤネズミは日本最小の齧歯類であると同時に、高茎草地や休耕地など草地環境に生息し繁殖を行うという特殊な生態を持っているいわゆる「象徴種」である（草地環境を象徴する）。しかしこの草地環境は二次的な環境であり、開発等による改変の影響で消失する可能性が非常に高い。

調査対象地である多摩川では、1930年代以降の徹底した河川改修事業により中流以下の流域でカヤネズミの分布情報はほとんどが途絶えてしまった。今日でも、中流付近では多摩モノレールの橋脚の耐震補強工事、各種河川改修事業によりその生息地が消失の一途を辿っている（筆者の井上は2015年度のカヤネズミ調査で実際に生息地の一部が消失している状況に立ち会っている）。

本調査研究では、現在進行中の、あるいは今後発生する開発事業等に対し、カヤネズミの生息に留意すべき重要な生息エリアを指し示す「カヤネズミ生息情報図」を作成することで、開発等を実施するにあたり行うべき詳細な調査の手法検討と、綿密な保全対策の提言を行うことを最大の目的とする。

## 生き物の生息に配慮して改修した農業水路の市民参加型モニタリング調査



西田 一也（ニシダ カズヤ）

東京農工大学農学府・農学部  
非常勤講師

かつて江戸・東京の穀倉地帯であった多摩地域は、戦後、都市化が進行し、著しく農地が減少してきました。しかし、多摩地域には小規模でありながら未整備の水田地帯が残存しており、農業水路にはドジョウ、フナ属、トウキョウダルマガエルなどの水田地帯に特有の生物が生息しています。本研究では多摩市が実施する「市民協働による川の生き物調査」を活用して、同市内を流れる一ノ宮用水の生物の生息に配慮して改修された区間において、市民参加により生き物と水路環境のモニタリング調査を実施することで、生物の生息に配慮した改修工法に関する知見の蓄積に寄与します。また、多摩川本流に比べると十分ではなかった、多摩川流域に残存する水田地帯の生物・生態系への市民の理解・関心を深める機会を提供するとともに、生物モニタリング調査技術を提供することで、市民が自立的に生物モニタリング調査を実施できる足掛かりとします。この研究の効果は、

### 水田地帯における生物・生態系の工学的保全方法の提案

生物の生息に配慮して改修された区間（木杭護岸の区間や越冬場としての橋下の深み）の効果を明らかにすることができます。これらの結果に基づいてより適切な保全工法および維持管理の方法を提案することができます。

### 多摩川流域における農業水路の生物生息場としての機能の解明

近隣市の農業水路でこれまでに明らかにされてきた生物生息場としての機能と一ノ宮用水の調査結果とを比較すること等により、多摩川流域の農業水路の機能をより明確にすることができます。

市民参加のマネジメント技術、生物モニタリング技術の普及  
市職員・市民・研究者が連携して生物モニタリングを実施する機会を提供することで、市民参加のマネジメント方法や、市民が主体となった生物調査のモニタリング方法に関する技術を、各参加主体が経験できます。

都市近郊の農業水路における維持管理方法の検討の場の提供  
調査結果の報告会の実施等により、農家による日常的な維持管理が希薄になっている都市近郊の農業水路における管理方法を検討する機会を提供できます。

## 「環境省レッドデータブック2014」の絶滅危惧Ⅱ類モリアブラコウモリは多摩川流域にいつ、どこに棲んでいるのか？



重昆 達也（カサヒ タツヤ）

東京コウモリ研究会 代表

我が国には約110種の陸生哺乳類が生息するが、このうち37種がコウモリ類であることは残念ながらほとんど知られていない。東京都（島嶼を除く）では明治以降12種のコウモリ類が記録されているが、「東京都版レッドデータブック2013」ではこのうち9種もが保護上重要な哺乳類として評価されている。東京コウモリ研究会では1999年よりコウモリ類の研究を始め、奥多摩山地において11種のコウモリ類を確認しているが、なかでも絶滅に対する評価ランクが高いのがモリアブラコウモリである。本種は自然度の高い森林にのみ生息すると考えられていたが、当グループの研究により、ある季節には山麓部にも出現すること、スギ・ヒノキ植林のような人工林も利用することが明らかになり、従来考えられているよりもより複雑な生態を持っていることが予想されている。しかし、奥多摩山地における記録は局地的であり、その全体像を捉えるには程遠い状態であることから、本種を捕らえることを優先しながら、コウモリ類の基礎分布調査を継続していく予定である。2015年度に奥多摩山地で70個体以上のコウモリにバンド（翼帯）を施した。バンドは再捕獲されてそのナンバーが確認されない限り、調査の意味を持たない。従って、2017年も2014年度一般研究助成と同水準の基礎的なコウモリ類の分布調査は継続する。その調査を継続しつつ、その発展的な延長としてモリアブラコウモリを捕獲することに特に留意した調査・試験研究を併せて実施するものとする。さらにモリアブラコウモリの多摩川流域における季節移動を推察することを目標にアブラコウモリ類を対象とした音声センサスを実施する。

## 一 研究助成成果報告書について

これまでに助成した研究中、下記のものについて成果報告書をご提出いただきました。  
なお、成果報告書は今後、財団公式ウェブサイトにも順次掲載してまいります。

種別	成果報告書番号	研究者氏名 (敬称略)	氏名 よみがな	所属・役職 (成果報告書提出時点)	課題名
学術研究	324	倉西良一	くらにし りょういち	千葉県立中央博物館 主任上席研究員	多摩川流域の水生昆虫類の遺伝的構造
	325	堀田こずえ	ほった こずえ	東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻 獣医公衆衛生学教室 助教	多摩川流域におけるダニの生息分布調査および ダニ媒介性人獣共通感染症調査
	326	小池裕也	こいけ ゆうや	明治大学理工学部 専任講師	多摩川集水域における底質中の放射性セシウムの 30年後を見据えた挙動解析
	327	溝口康	みぞぐち やすし	明治大学農学部 准教授	多摩川上流域に生息するニホンジカの遺伝構造・ 遺伝的多様性の評価
	328	吉岡拓	よしおか たく	恵泉女学園大学人文学部 特任助教	近代多摩川と皇室一献献上と多摩地域の聖蹟化 に関する歴史学的研究
	329	愛知正温	あいち まさあつ	東京大学大学院新領域創成科学研究科 講師	多摩川下流低地における地下水環境と地盤沈下・ 隆起の変遷
	330	和田美貴代	わだ みきよ	熊本大学薬学部附属 薬用資源エコフロンティア センター 特任准教授	多摩川中流部における樹林伐根跡地の植生変化と 立地との関係
	331	春田 伸	はるた しん	首都大学東京理工学研究科 准教授	多摩川上流域の生態系を育む河床藻類を支える 窒素固定細菌の多様性と役割
一般研究	227	小坂克信	こさか かつのぶ	産業考古学会 理事、 水車と臼分科会 代表	埼玉県での多摩川の水利用 ー野火止用水ー
	228	清宮祥子	せいみや しょうこ	特定非営利活動法人R. I. La 理事長	多摩川中流域並びにその支流域における放射能の 土壌汚染と生体に対する影響について
	229	田畑伊織	たばた いおり	かもしかの会東京 代表	御岳山地域ニホンジカ生息調査ー絶滅危惧種 レンゲショウマの群生地を守るためにー
	230	山口 孝	やまぐち たかし	多摩クマタカ生態調査チーム 代表	多摩川流域山地の伐採跡地を利用する鳥類に 関する研究
	231	粕谷和夫	かすや かずお	八王子・日野カワセミ会 会長	浅川流域における野鳥の長期間継続調査結果 から見た動向及び環境変化との関連を考察する 調査研究
	232	渡部一二	わたべ かづじ	水縁空間デザイン研究所 代表	品川用水における水利施設遺構の残存状況調査
	233	神谷 博	かみや ひろし	みずとみどり研究会	「野川湧水回廊」の価値づけと地下水保全のための 調査研究
	234	辻野五郎丸	つじの ごろうまる	玉川上水域研究会 代表	玉川上水・分水網の構成と関連遺構に関する調査 (その2)

### 3 活動支援事業について

第9回「とうきゅう環境財団 社会貢献学術賞」を贈呈しました

今回は、倉本 宣氏（明治大学農学部 教授）に贈呈いたしました。

賞の内容、受賞者のプロフィール、贈呈式の模様など詳細は、財団だより152号（2017年12月号）  
をご参照ください。（公式ウェブサイトからも閲覧・印刷できます）

<http://www.tokyuenv.or.jp/scene>

### 4 啓発普及事業について

副読本「多摩川へいこう」を作成・配付しました

副読本を作成し、多摩川流域の小学校に無償配布しました。

（ご希望の方は、財団事務局までお問い合わせください。）

お問い合わせ先

[info@tokyuenv.or.jp](mailto:info@tokyuenv.or.jp) FAX 03-3400-9141



## 財団からのお知らせ

### 1. 「多摩川“水”大学講座」を開催します

財団では、「美しい多摩川フォーラム」主催の「多摩川“水”大学講座」を下記の通り共催いたします。この講座は、今年で第七回目になります。講師は、陸水学の第一人者で、2016年度とうきゅう環境財団第8回社会貢献学術賞を受賞された小倉紀雄先生（東京農工大学名誉教授）です。

水の重要さ、利用できる水資源、水循環、水質など水に関する知識を総合的に知る事により、身近な水環境さらに地球環境を考え、保全することをみんなで考えていきます。是非ご参加ください。

記

#### 【開催日時】

- 第1回：平成30年 5月18日（金）午後2時～午後4時
- 第2回：平成30年 6月15日（金）午後2時～午後4時
- 第3回：平成30年 7月20日（金）午後2時～午後4時
- 第4回：平成30年 9月21日（金）午後2時～午後4時
- 第5回：平成30年10月19日（金）午後2時～午後4時
- 第6回：平成30年11月16日（金）午後2時～午後4時

【講師】 小倉 紀雄 氏（美しい多摩川フォーラム副会長・東京農工大学名誉教授）

【対象】 水環境に関心のある成人で、原則として毎回出席できる方

【定員】 15名（申し込み先着順）

【会場】 公益財団法人とうきゅう環境財団 会議室  
（住所：渋谷区渋谷1-16-14 渋谷地下鉄ビル5階）  
地下鉄13番出口直結

【受講料】 無 料

【申込期間】 平成30年5月10日（木）締切（必着）

【申込方法】 氏名、住所、電話番号、メールアドレスを明記し、下記へハガキ、メール、FAXのうち、いずれかの方法によりお申し込みください。

【お申込先】 美しい多摩川フォーラム事務局「多摩川“水”大学講座係」（担当：黒米）  
〒198-8722 青梅市勝沼3-65（青梅信用金庫 地域貢献部内）  
電話：0428-24-5632 Fax：0428-24-4650 E-mail：forum@tama-river.jp

#### 【講座内容（予定）】

##### 1 水の特性と重要性

- ・身近な存在である水は他の液体に比べ、特異的な特性を持っている。水があるため、生命が維持され、生物が生存できる温暖な地球環境が創られている。水の特性や重要性、さらに文化的な意義について考える。

##### 2 水の循環と人間活動の影響

- ・雨として降った水は再び蒸発するなど循環を繰り返している。しかし、近年、森林の伐採や都市化などの影響により、水の循環のバランスが崩壊している。水の循環のバランスを取り戻すためにどうすれば良いか考える。

##### 3 水資源と有効利用

- ・私たち一人ひとりが利用できる水の量（水資源）には限りがあり、決して豊富ではない。限りある水資源を持続的・有効に利用することを考える。また仮想水の概念と課題について考える。

#### 4 水質汚染と対策

・水の汚れの大きな原因のひとつに生活雑排水がある。下水道の普及とともに河川などの水質は改善されてきたが、台所など家庭でできる雑排水対策も有効であり、それらについて考える。

#### 5 酸性雨と生態系への影響

・人間の活動により排出される窒素酸化物・硫黄酸化物は雨に溶けて酸性雨として地上に降下する。酸性雨の森林・土壌や湖沼など陸域生態系に与える影響と対策について考える。

#### 6 多摩川・東京湾の現状と将来

・多摩川が流入する東京湾の水質は1970年代には著しく悪化していたが、下水道の普及とともに水質は改善されてきた。これら水環境の変遷などの現状を知り、これからの姿について考える。

※上記講座内容は、予告なく変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

【主催】 美しい多摩川フォーラム

【共催】 公益財団法人とうきゅう環境財団



講師 小倉 紀雄 (おぐらのりお)

東京農工大学 名誉教授

#### プロフィール

学 歴	1962年	東京都立大学理学部卒業
	1967年	東京都立大学大学院理学研究科博士課程修了
職 歴	1967年	東京都立大学理学部助手
	1974年	東京農工大学農学部助教授
	1985年	東京農工大学農学部教授
	1999年	東京農工大学大学院農学研究科教授
	2003年	東京農工大学名誉教授
	2009年	日野市環境情報センター長 (現在 日野市立カワセミハウス館長)

以上

## 2. 次号より読者コーナーを開設いたします。

「財団だより多摩川」へのご意見・また流域のイベントのご紹介、多摩川でみかけたものなど楽しいおたよりや情報をお待ちしております。

公益財団法人とうきゅう環境財団 info 宛に MAIL でお送りください。

宛先：info@tokyuenv.or.jp



## 3. 新連載スタート！！

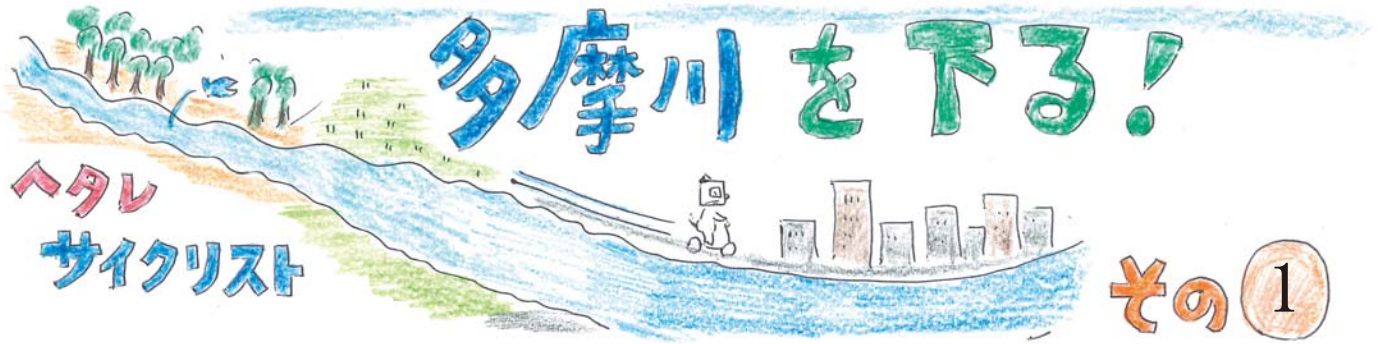
今号より 財団職員による新連載「ヘタレサイクリスト 多摩川を下る」がスタートします。(24 ページ) もう一度 現在の多摩川を走り、歩き、見つめなおすことで、「138kmの可能性」をお伝えできればと思います。

### 編集後記

この冬は厳しい寒さでしたが、いかがお過ごしでしたでしょうか。皆様のご厚意に支えられ、私もなんとか「財団事務局一年生」を修了できる見込みです。今号から、不肖Zによる新連載がスタートしました。多摩川流域にて真摯に研究・活動を続けておられる皆様に比べれば誠にお恥ずかしい内容ですが、「箸休め」として、気楽に読み流していただければ幸甚です。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。(Z)

多摩川改修から100年。財団でもこれを機にいろいろ新しい事にチャレンジをして参りますのでよろしく願いいたします。Zの新連載も始まりました。2018年度の助成研究応募数も昨年より増えました。告知にご協力いただいた関係先の皆様へ御礼を申し上げます。引き続きよろしく願いいたします。

「多摩川“水”大学講座」のご参加をお待ち申し上げます。(M)



さてさて。今回より登場いたしました、財団事務局Zです。皆様、日頃からご愛読ありがとうございます。突然ですが、これより多摩川の上流から河口まで、シリーズを組んで、自転車であらしてみようという訳であります。旅の友は、この時のために買った（という格好いいですが、実は前から持っていた）折り畳み自転車。もちろん138キロの多摩川を一日で走破するなどせず、日が西に傾けば、サッと畳んで電車で帰る、また次の機会をうかがっては前回の続きから走り始めようという寸法。体育会系ではなく、私の「ハタレサイクリング」ですから、上り坂はできるだけ走らず、ひたすら川に沿って坂を下るだけのお気楽道であります。

本来ならば多摩川の水源地であるところの、笠取山の麓からスタートすべきですが、ちょっとだけ勘弁してもらって、山梨県は丹波山（たばやま）村から、いよいよ旅の始まりでございます。

JR青梅線の終点、奥多摩駅前の営業所から、丹波行きのバスに乗り込みます。1時間ほど揺られ、終点・丹波に到着。買い込んでいたおにぎりとお茶で朝飯を決め込み、ここで自転車を展開し、いざ旅の始まり。



相棒「銀星号」（勝手に命名）の肖像画。15年ほど前、横浜のスポーツ用品店で衝動買いした、台湾製のモデルです。重さわずか9キロ、工具を使わず15秒で展開・収納が可能という実に頼れるヤツです。

しばらく進むと、路傍に「ナメトロ」と大書した看板が建っていたので、何かと思って行ってみたら、

こんな所でした。流れが岩肌を舐め取っているように見えるところから、そう呼んだとか（食べ物の名前ではなかったようです）。

それにしても、川床の流れの、きれいなこと！

でも残念ながらこのあたりは、崖が険しくて、河原には下りられません。



丹波山村の中心部。左側のお地藏さんみたいなものは、湧き水。大きなアルマイトの柄杓が置いてありました。ありがたくお水をいただきます。

丹波山村は、多摩川が作った段丘に沿って広がっています。このあたり、どこにいても、川の音が聞こえてきます（音色は「せせらぎ」というより「轟音」に近いですが、それでも癒し効果は満点！）。



家の軒先で、ワラビやタラノメを干していました。春の息吹を感じます。

ここは、まぎれもなく山梨県なのですが、沿道には「東京都水道局」の事務所が。多摩川が都民の貴重な水源であることを、あらためて思い起こします。

おや、川向こうにある、あの建物は何だろう？ と近寄ってみたら、

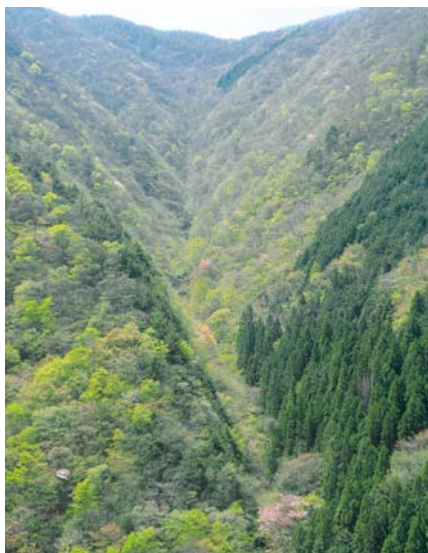
「丹波山温泉 のめこい湯」でした（のめこいとは「つるつるすべすべ」の意）。ちょっと自転車を止めて、ひとっ風呂浴びていきましょう。温泉の人の話では、夜には時々ムササビも来るそうです。



ここから先は、ちょっとした峠を越えます。振り返ると、村がぐんぐん小さくなっていきます。多摩川もはるか眼下を、小さくなって流れていきます。

沢筋に沿って、新緑が一面に芽吹いていますね。谷間から、いろいろな野鳥の音が聞こえてきます（写真に写らないのが残念！）。





そのうち、川幅は広く、流れも緩やかになってきました。多摩川が、奥多摩湖に向かっての序曲を奏でているのです。釣り糸を垂れている人が見えます。このあたりから、銀星号は東京都に入ります。



水面が洋々と見渡せる場所に出ました。ここが小河内（おごうち）ダムの水門の真上(水の出口)にあたります。あたりは大勢の観光客で賑わっていました。外国からの人も、ちらほら見かけます。

ここにあるのが、「水と緑のふれあい館」。東京都水道局と奥多摩町が運営する施設で、水道やダムの仕組み、地元の自然や民俗などの展示がされています。ちょうど腹ペコだったので、奥多摩湖を見下ろすレストランへ。



「ダムカレー」(1000円)というのを食べてみました。あ〜あ〜あ〜あ〜…。でも、こうしないと食べられないのよ〜！

さて、腹もふくれたので、一気に終点を目指します！



湖面に浮かぶ、「ドラムカン橋」。自転車降りて歩いて渡ってみました。かなり揺れます……。



峰谷橋。赤いアーチが目にも鮮やかです。多摩川の支流をこうして何回か渡ります。



ダムの出口へ回ったところ。轟々たる大奔流に虹がかかるシーン……を想像していたのですが、今日は拍子抜けするほど穏やかに水が流れておりました。

ほどなく、午後の陽射しに照らされた新緑を眺めつつ、奥多摩駅へゴールイン！

おつかれさまの銀星号は、畳んで専用の袋に入れ、担いで電車に乗り込んで帰るのであります。



大麦代(おおむぎしろ)園地という所に出ました。広場に面した斜面のそこそこに山桜が咲いています。茶店の人に勧められた、わさびアイスを食べました。ウマイ！



### ◆今日のおみやげ



奥多摩駅近くの酒屋さんで勧められた、地元の蔵元「澤乃井」の純米酒・夏限定仕様。毎日晩酌しているというおかみさんは、80才とは思えない若々しさでした。私は家で冷奴と合わせて頂きました。辛口でクイクイ行けちゃいます。アブナイアブナイ。

次回は奥多摩駅から、さらに下流を目指します！

(取材時期 2017年4月)



- 発行日  
2018年3月1日
- 編集兼発行  
公益財団法人とうきゅう環境財団  
〒150-0002  
渋谷区渋谷1-16-14  
(渋谷地下鉄ビル5F)  
TEL 03-3400-9142  
FAX 03-3400-9141  
公式ウェブサイト  
<http://www.tokyuenv.or.jp/>